

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500115
法人名	株式会社 愛ホームサービス
事業所名	グルーゾホーム愛 上沢
所在地	神戸市兵庫区下沢通8-2-20
自己評価作成日	令和6年11月17日
評価結果市町村	受理日
	令和6年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県加古川市加古川町稲屋177-10
訪問調査日	令和6年12月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果	
		↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と2/3くらい 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグルーゾホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が2/3くらい 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が2/3くらい 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グルーゾホームの入居者様は平均年齢を90歳を超えております。日常生活においては、入居者様お一人お一人に寄り添い専門的なケアを提供できるよう職員間でも情報の共有を大切に業務にあたっております。医療面においては医師・看護師・歯科医・薬剤師・管理栄養士の指導や助言を仰ぎチームとなって支援に努めています。又、家族様との密な連絡を重視し入居者様の体調面などこまめなに行っております。いろいろな事情でなかなか起こし頂けない家族様もおられますので「愛便り」を発行し毎月の行事やレクの様子を発信しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】日々のサービス提供場面を振り返り、事業所としての理念を職員全員で話し合い独自の理念として作り上げている。就任1年目の管理者様のリーダーシップで事業所の仕組み改善に取り組んでいる。
【工夫点】就任されて1年が経過される管理者様が、とても細かく対応をされておられました。2階3階それぞれ雰囲気の違い、ご入所されている皆様で醸し出されている雰囲気が良い。お風呂場やお手洗い、共有部分など掃除が行き届き清潔な環境で提供している。特にスカイ広場(屋上)は春にはお花を植えることができます。広々とした空間であり活動の場となり得ます。神戸市の中心部にありながらも静かな雰囲気です。

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己評価	第三者評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲げ常に共有することが出来るように努めている。	グループホームの意義や役割を考えながら職員で話し合いの機会をもち、事業所としての理念をつくりあげている。またケアサービスを提供する上での拠り所として大切な事として意識づけがなされている。常に立ち戻り共有し実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しについてはコロナ禍こととはいえまだまだ交流とまではできていせんが、頻回とまではいきませんが、天気の良い日などに買い物や散歩などに職員と一緒に出掛けています。	地域とのつながりながら暮らしていけるよう、地域で必要とされる役割を得るための基盤整備に取り組んでいる。自治会にも加入している。また買い物など地域の方々との挨拶を交わすなど触れ合う機会を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や相談者があればデイルームへの案内を行っている。デイルームの環境を整え誰でもが入るっ事が出来 利用出来るようにしました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での貴重な意見は会社組織全体で話し合い報告できるようにしている。	運営推進会議では事業所の取り組み内容や事業内容について報告している。事故報告やヒヤリハット報告も毎回実施し参加メンバーから質問や、意見を受けている。またあんすこ職員も参加されますので現在取り組みんでいる内容についても報告している。	事故報告及びヒヤリハット数を会議で報告されています。ヒヤリハット数を更に増やすことは事故防止につながります。ぜひ簡易な書式を検討し気づきを活かして頂きたい。サービス向上に向け取り組み頂きたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアサービス会議の参加が出来ていない。行政との関係は運営推進会議のみである。	市職員との日頃の関わりでは、メールでのやり取りしている。運営推進会議を交流の機会としている。またケアサービス会議への参加など今後はあんすこ職員と協働しながら取り組んでいきたいと望まれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行政の指導の下、一年間に二回の研修を開催し各職員に学んでもらっている。	職員自身が、身体拘束によって利用者にも与える影響を理解し拘束のないケアの実践にむ取り組み研修している。年2回身体拘束に関する研修会を企画し研修している。1日3～4部制にして開催することで職員全員が参加できるようにしている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	行政指導の下、一年間に二回の研修を開催している。事故報告書には虐待の有無について新たな記載項目を増やし職員全体で意識づけをしている。	年2回「虐待」に関する研修会を開催し虐待防止に関する理解を浸透および遵守にむけ取り組みんでいる。事業所として「不適切なケア」について課題と掲げ、言葉がけなど対応方法について話し合っている。令和6年12月事例をもとに虐待防止研修会を開催します。		

自己 者三	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度を活用されている入居者様がおられる。玄関には簡単なリーフレットを置き誰でも制度について知ることが出来る。	成年後見制度を利用する利用者もおられます。また対応が必要と思われる利用者への説明時には、リーフレットを設置しいつでもお渡しできるようにしている。		
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前面談の場や 家族様の見学の際など利用者様やその家族様からの質問や疑問・不安には出来る限りのお答えをしている。	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組みを、退所を含め事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。特に医療処置が必要な場合など医療連携体制の実際について詳細を説明し同意を得ている。		
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時や運営推進会議、その他の連絡の際など家族様の意見は職員に必ず申し伝えるようにしている。	運営推進会議では、個々の家族様の立場に立つて意見や要望など確認している。出された率直な意見をサービスの質向上につなげている。具体的に取り組みため職員間で話し合い検討する。職員の顔写真をフロアに提示することはできませんでしたが、「お便り」を活用し家族様にお知らせしています。		
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人員不足の問題では介護現場職員の声に応えるべく派遣会社や紹介会社などと契約を行った。	入職時や賞与や昇給時には個人面談を実施し職員の意見を聞く機会を設けている。職員勤務体制や配置など現場の職員の要望や意見を聞くようにしている。事業所の運営方法など日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け聞き出ししている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は昇給や賞与など職員一人一人の努力に応じているし、懇親会や面談など様々な形で良い職場環境になるよう努めている。			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろいろな研修を受講できるように案内を出してくれた内部研修として取り入れてくれている。			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	兵庫区内のグループホーム連絡会に参加している。			

自己 第三者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	利用者の困りごと、不安、心配には必ず傾聴し寄り添ったし聴下出来るように努めています。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の家族様の困りごと、悩みには要望に繋げ解決できるように関係性を深めています。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同グループの施設などとも相談しながら対応を考えていくようにしている。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事を探しつつ職員と共に安全師過ごしていけるように努めている。			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の一番の理解者と捉え、ご協力して頂けることは積極的に参加して頂く。			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を利用し馴染みの方と合ったり出掛けたりという普通の暮らしが出来るように努めている。	これまで本人を支えてくれたり、逆に支えてくれた関係性を把握し、事業所を利用して、今までの延長線であるよう支援している。毎日面会に訪れる家族様やお正月にはお泊りや外出が予定されている。継続的な交流ができるよう働きかけている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の性格や介護度に合わせ席を柔軟に対応している。ただ、お一人で過ごす時間も大切にしている。			

自己 第三者	項 目	自己評価		外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば相談にのっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でしたい事など希望があれば聞き取っている。困難な場合の方にはその表情や様子を汲み取り対応している。	日常の中での会話より、頂いた情報(希望や要望)を大事にしておられます。美味しい珈琲を飲みたいという希望などの聞き取りをされる と脚座にできることはできるだけ速やかに対応をしいかれることです。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方はグラフにも反映する事なのできちんと同うようにしている。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの際に伺っている。			
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の希望や家族の願いを鑑み職員間で共有し今 出来るサービスに繋げている。	情報を収集して統合分析された後、計画への位置づけを行い再度実践し、また評価を行われていることです。PDCAサイクルを活用して問題となることを速やかに解決するように医療・介護・看護等が担当者会議に参加されて意見交換を行っておられました。ケアプラン実践表を使用し、介護への情報が提供されていました。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースや事故報告など毎日の様子を観察し、あったこと・出来なくなったこと等を職員間で話し合い計画を見直している。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り利用者のニーズに答えられるように また、臨機応変に対応できるように努めている。			

自己 第三者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め支援に繋げる事が出来るよう努力している。			
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療面では家族様や本人の希望がより叶えられるように家族様の理解と協力の下、支援している。	入所の説明・面談時に協力医の説明等を行う。かかりつけ医等の受診が可能であること及び医療連携加算等の説明をし同意を得て適切な医療が受診できるように支援が行われています。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連絡を密に行い、又訪問時にはいろいろな事を相談できるような関係性を築いている。			
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際にはサマリーを送り相談員と幾度となく連絡を取り合うようにし、早期の退院を心がけている。	管理者（介護支援専門員有資格者）が基本的には情報を各病院地域連携室等への情報提供を行い、退院に際しても速やかに退院時サマリーを頂き受け入れを実施している。万が一管理者不在の折は居宅療養管理指導等の情報を提供できるようにしている		
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針に沿った支援を行っている。主治医からの説明には管理者も同席し、家族様と共に利用者を支える事できるよう務めている。	緊急時における意向確認・同意書及び重度化した場合における対応及び看取りに関する指針等の書面を整備しその内容に添って利用者様・家族様の意向確認を行い、職員や医療看護チームとも連携し支援を提供されていることがわかりました。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応マニュアルを見直し誰もが直ぐに迷わず対応できるようにしている。			
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域への声掛けは行っているが協力には至っていない。	BCP（事業継続計画）策定内容及び研修資料を確認しました。地域の方々との関係性の構築と共に専門職の皆様がおられる施設になります。同法人内での研修等が行われています。	自然災害・感染症は予測が立ちません。職員全員が内容を理解するまでに至らないとしてもBCPの意味意義の周知を行いましょう。また地域の方を招集して共に災害対策の検討を実施されたいと思います。	

自己 第三者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の生活の中で、人格を尊重するような言葉がけを行っている。	危険を伴う際の声掛けである「座って下さいね」「立たないでください」等の表現を、言われる方の立場で考えておられると言われた言葉が印象的でした。排泄の促しなどは、小さな声ですが、その方にわかるように促しをかけておられます。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に選択肢があるような問いかけを心がけている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に時間にとらわれる事の無いよう個々のペースを大事にしている。			
39	○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	利用者の施行に合わせているし、衣類においてもその方らしい衣服を来ていただいている。			
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクなどを活用しお菓子づくりや食事作りにおいて協働している。日々の中では片付けなどをお願いしている。	献立に食事内容が記載されています。希望の聞き取りなど食事メニューの改善も行われています。デイルームが見渡せる環境に配膳下膳の準備を行う調理室があります。体調に合わせて、入居者様が盛り付け・配膳・下膳を職員と一緒にしています。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ここにあった、食事形態での提供をしている。水分については摂取量の把握に努めている。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一回 歯科往診がある。その際の助言を職員間で共有し口腔内の清潔に努めている。			

自己 第三者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、パターンの把握に努めている。トイレでの排泄を心がけており実践している。	24時間排泄確認票を活用されて個々の入居者様用のシートで排泄の管理を行っています。現在、リハビリパンツ・おむつ使用の方が概ね半数の方となっています。	データの振り返りをされているので、収集された情報から、時間分析を行い、自発的な排泄に繋がるような支援をお願いいたします。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬にはあまりとらわれずに体操や外部からの刺激を利用するように心がけている。			
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はお一人お一人の希望に沿って出来るように配慮している。清拭やシャワー浴など臨機応変に対応している。	1週間で2回の入浴があります。発汗が多い夏、排泄等による汚染の場合は適宜シャワー・清拭が行われています。時には入浴を拒否される場合などは、時間及び日の変更等を行い対応されています。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して眠れるよう支援している	午睡や夜の睡眠などその方の生活習慣を知り無理強いせず安心して休んで頂いている。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からの助言もあり内服薬に限らず服薬の支援については職員間で共有している。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や生活歴に合わせて毎日の過ごし方を考え柔軟に対応している。			
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外に出借ることが出来る方が限られているのが現状となっています。家族様の協力は頂いています。	各フロアの担当者人数等もあって、遠出をするのは難しい中、施設内の屋上にとでも広いカイ広場があり、気温を見ながら外でお弁当を広げて食べたり、一緒に洗濯物をしたりしておられます。買い物同行は1か月に1・2名されるそうです。近隣の方々とはお会いしたご挨拶をします。		

自己 第三者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所でお預かりしている。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者は携帯電話を持っており自由に家族様との連絡をされている。			
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは明るく保たれている。季節感を感じられるよう壁画を貼ったり花を飾ったりしている。	玄関前が生活道路になっているため、車が往来しています。直ぐ近くに幹線道路があり、事故の危険性もあり、玄関はロックがかかっていた。受付はやがて雑然としていました。2・3階の生活の場はとても暖色を使い温かい雰囲気の季節に合った壁飾りなどがありました。	受付横に意見箱が設置されています。コミュニケーションを交えて口頭が要望等を伝えることが望ましいのですが、お声をかけそびれることもあります。意見箱を受付に置かれ、意向や要望等の確認をされるとより関係性の構築になると思います。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性が出来ており自由に席を変えている場面も見られています。			
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族様にはその方の使い慣れたものや大事にしているものなど持ち込んで欲しいと伝えている。	2階3階と各居室の広さや色合いなどが、違っていました。ご本人の使用していた鏡やタンスなど、その方自身の物が置かれていて、生活のしやすい状況になっていました。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差が無くトイレの場所は分かりやすくしている。			